

もくじ

▽新年のご挨拶（千葉大・勝浦哲夫）	1-2
▽第71回大会終了報告（神戸大・中村晴信）	2-3
▽第72回大会御案内（北海道大・山内太郎）	3-4
▽国際シンポジウム・続報（神戸芸術工科大・古賀俊策）	4
▽第70回大会優秀発表賞のことば	4-5
▽関東地区研究奨励発表会終了報告（千葉大・下村義弘）	6
▽学会動静	6
▽from Editors	6

【新年のご挨拶】

日本生理人類学会会長
勝浦哲夫（千葉大学）

本年も会員皆様にとって良い年になりますことを心より願っています。本年も宜しく願い申し上げます。

さて、昨年は6月21-22日に九州大学大橋キャンパスで綿貫茂喜大会長の下に第70回大会が開催されました。大橋キャンパスで本大会が開催されたのは今回で4回目となり、生理人類学研究の中心の一つであることをこの数字は物語っております。大会では板橋義三先生（九州大学）による特別講演「日本語の源流と形成」があり、日本人の起源に関わる文化的側面からの大変興味深いお話を伺うことができました。この他、シンポジウムⅠ「“集団”を科学する～若手研究者が考える未来～」（司会：太田博樹先生）では、霊長類学、社会心理学、人類遺伝学、生理人類学の新進気鋭の研究者より、それぞれの立場から生理人類学的研究にとって重要なテーマである集団の捉え方、研究手法などについてお話戴きました。今後の研究交流の発展を予期させる意義深いシンポジウムでした。また、シンポジウムⅡ「生体機能のバリエーション」（司会：樋口重和先生、前田享史先生）では、ヒトの様々な形質に関する変異についてその分野の第一人者の先生よりお話を戴きました。変異も生理人類学にとって非常に重要なテーマであり、熱い討論が交

わされました。この他、本大会ではポスター発表、一般講演を合わせて67演題もの発表があり、研究交流の場として盛況里に開催されました。また、懇親会はさすが綿貫大会長と言わしめる大変豪華なものでした。綿貫大会長始め、村木副大会長、小崎事務局長、実行委員の先生方に改めて感謝申し上げます。

また、11月1-2日には、神戸大学六甲台キャンパスで中村晴信大会長の下に第71回大会が開催されました。神戸市での大会は今回で3回目ですが、神戸大学での開催は初めてでした。六甲山の中腹に位置する会場から眼下に見える神戸の街並み、港、海の景色は大変素晴らしいものでした。佐藤宏明先生（浜松医科大学）による特別講演「アフリカ熱帯雨林における狩猟採集生活の人類学的検討-狩猟採集民バカの実験的狩猟採集活動の観察から-」は「Wild Yam Question 仮説」を検証するために実験的に狩猟採集生活を行ってもらおうという大変興味深いものでした。佐藤先生には懇親会、二次会にまでご参加戴き、親しくお話しできましたことは望外の喜びでした。シンポジウム「発育発達のフィールドワーク」（座長：甲田勝康先生）では、発育・発達に関する疫学的研究について、発達と疾病発症の関係、80年間に及ぶ小中学校学童の身体測定、乳幼児期から思春期までの生活習慣・体力・身体組成の関連などの貴重なデータに基づくお話を伺うことができました。この他、54題のポスター発表、一般口演

があり、本学会ならではの活発な質疑が行われました。懇親会も第 70 回大会に劣らず大変豪華なもので、神戸牛などの神戸ならではの美酒美食を味わうことが出来ました。懇親会場には三宮のワインバーのソムリエ熊崎さんにお越し戴き、美味しいワインを戴けたのも中村大会長の交流の広さを物語るものでした。中村大会長始め、小崎副会長、小原事務局長、実行委員の先生方に改めて感謝申し上げます。

第 71 回大会前の 9 月 4-5 日には中村晴信先生他のお世話で恒例になりました第 3 回夏期セミナーが京都で開催されました。例年通り多数の学生が参加し、若手研究者の交流の場として有意義なものとなりました。

昨年は、この他、5 月 15-18 日には国際人類学民族科学連合中間会議（千葉市）での生理人類学パネル「Environment and adaptation in human evolution」（議長：樋口重和先生、太田博樹先生）、人類学関連学会協議会合同シンポジウム「ヒトがヒトであるゆえん—学習能力の進化をめぐって」（日本生理人類学会シンポジスト：樋口重和先生）がありました。さらに、5 月 21-24 日には韓国チェジュ島で第 1 回アジア人間工学デザイン会議（ACED2014）が開催され、日本生理人類学会招待セッション I~IV で日韓の研究者による 20 題の口演発表がありました。この招待セッションの開催については、韓国 Hanbat 大学の関丙賛教授に大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。

8 月 25-29 日にはモスクワで第 19 回ヨーロッパ人類学会議（EAA）が開催され、生理人類学のセッションには本学会からも安河内副会長始め 6 名が参加し、国際的な研究交流が図られました。さらに、10 月 9-11 日には中国合肥市で中国照明学会-光生物・光化学応用研究会が開催され、本学会から 4 名が口演発表を行い、中国の光生物学研究者との交流を深めることができました。

英文誌 JPA のインパクトファクターも一昨年の 0.63 から 1.16 に向上し、海外からの投稿も急増するなど、本学会の国際的な研究交流が盛んになった 1 年でした。

さて、本年は、この PANews が皆様のお手元に届くころには待望の本学会編「人間科学の百科事典」（丸善出版）が刊行されているものと思います。3 月 14-16 日には古賀俊策先生のお世話で本

学会主催の「ヒトの環境適応と全身的協関に関する国際シンポジウム」が神戸大学で開催されます。9 つのセッションには国内外の多数の招聘研究者が参加され、更なる国際的な研究交流が図られるものと期待しています。5 月 30-31 日には山内太郎大会長の下に第 72 回大会が北海道大学で開催されます。北海道大学での開催は 5 回目となりますが、今回も多く参加があるものと期待しております。また、10 月 27-30 日には千葉市で第 12 回国際生理人類学会議（ICPA2015）が開催されます。脳科学・神経美学で世界的に著名なセミール・ゼキ先生の特別講演を始め、歴代 IAPA 会長による記念シンポジウム、9 つのセッション、ポスター発表などが予定されています。会員皆様多数のご参加をお待ちしております。

本年も皆様の研究活動のお役に立てるように学会運営をしていきたいと考えております。会員皆様のご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

【第 71 回大会終了報告】

日本生理人類学会第 71 回大会長
中村晴信（神戸大学大学院）

平成 26 年 11 月 1 日、2 日の両日におきまして第 71 回大会を開催致しました。生憎の雨模様となりましたが、無事に開催できました。前日には若手の会が開催され、その後の懇親会も合わせて若手研究者の有意義な交流が行われました。本大会では 54 演題の一般演題の申し込みを頂きました。さらに、特別講演とシンポジウムを企画いたしました。特別講演は、浜松医科大学の佐藤弘明名誉教授に「アフリカ熱帯雨林における狩猟採集生活の人類学的検討—狩猟採集民バカの実験的狩猟採集活動の観察から—」と題してご講演いただきました（写真 1）。シンポジウムでは「発育発達におけるフィールドワーク」（座長 甲田勝康先生 近畿大学）と題して、子どもを対象にフィールド研究をされている藤田裕規先生（近畿大学）、黒川修行先生（宮城教育大学）、引原有輝先生（千葉工業大学）に、最新の知見をご紹介いただき、集団研究に求められる方法論や生理人類学への応用についてご討論いただきました（写真 2）。このたびの特別講演およびシンポジウムをきっかけとして、フィールド研究と実験室研究が互いに補完する形で生理人類学が発展する

ことを願ってやみません。



写真 1. 特別講演の佐藤弘明浜松医科大名誉教授



写真 2. シンポジストの先生方と司会の甲田先生



写真 3. 懇親会の様子

本大会ではいつもより余裕のある日程を組みましたが、その結果、普段会えない研究者同士での交流がはかれたように思えます。また、今回の懇親会は、地元兵庫県産の食材とワインを中心としてメニューを組み立て、神戸牛ステーキを

中心としたシェフ渾身の料理と、三宮に店を構えるオーナーソムリエによるワインサービスをご提供いたしました。本大会参加者の 76%が懇親会にご出席いただいたことから、ご参加いただいた先生方には、きっとご満足いただけたのではないかと思います(写真3)。

2日間の短い大会期間ではありましたが、有意義な時間をお過ごしいただくことができましたなら幸甚でございます。本大会の開催に関してご協力とご支援を賜りました全ての皆様へ感謝申し上げます。次大会の北海道大学にてお目にかかれまことを楽しみにしております。

【第72回大会（札幌）のご案内】

第72回大会長 山内太郎

(北海道大学保健科学研究院)

第72回大会を下記の会期・会場にて開催いたします。本大会では特別講演と2つのシンポジウム、一般公演、ポスターセッションを企画しております。特別講演は、人類学ならびに霊長類研究の第一人者である京都大学総長、山極壽一先生にご講演いただきます。最初のシンポジウムは、人類学研究交流会シンポジウムとして「狩猟採集民の人類学」を企画しております。生理人類学、生態人類学、自然人類学より、脂が乗った中堅4名のシンポジストを予定しています。もう一つのシンポジウムは、「体組成、代謝、適応、身体活動に関するシンポジウム（予定）」として将来を期待される若手4名のシンポジストを予定しております。詳細につきましては、今後学会ホームページにて随時お知らせいたします。会員の皆様と緑萌ゆる初夏の北海道にてお目にかかれることを心より楽しみにしております。ぜひ、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

【会期】2015年5月30日（土）・31日（日）

【会場】北海道大学医学部学友会館「フラテ」

札幌市北区北15条西7丁目

【アクセス】<http://www.med.hokudai.ac.jp/access/>

【プログラム概要（予定）】

- ・ 理事会・若手の会（5/29）
- ・ 一般口演・ポスターセッション（5/30-31）
- ・ ポスターセッション（5/30-31）
- ・ 懇親会（5/30）天使大学病院マリアホール
- ・ 評議員会（5/30）、総会・関連会議（5/31）

【参加・発表申込み等の日程方法】

- ・演題申込締め切り：2015年4月3日（金）
- ・抄録提出締め切り：2015年4月30日（木）

【大会参加費】

4/30以前の振込；正会員8千円，非会員1万円，学生（正会員/学生会員）4千円，学生（非会員）5千円

4/30以降の振込；正会員9千円，非会員1万円，学生（正会員/学生会員）5千円，学生（非会員）6千円

【懇親会費】正会員4千円，非会員5千円，学生（正会員/学生会員/非会員）2千円

【振込先】

- ・郵便振替 日本生理人類学会第72回大会
02740-9-48023

・他の金融機関から振込の場合

店名：二七九（ニナナキュウ）店

預金種目：当座 口座番号：0048023

【事務局（問合せ先）】

〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目
北海道大学大学院保健科学研究所人類生態学研究室
日本生理人類学会第72回大会事務局

E-mail: jspsa72@jspsa.net

Tel&Fax: 011-706-3379

【国際シンポジウム・続報】

代表世話人

古賀俊策（神戸芸術工科大学）

来る3月14～16日に神戸大学で行われる国際シンポジウムの第3報を本学会ホームページで御連絡します（下記の大会情報URLをご参照願います）。抄録集、会場の詳細地図、交通アクセス等がアップデートされております。ポスターセッションと懇親会が開催されますので、たくさんの会員の皆様にお目にかかれることを心より楽しみにしております。是非、奮ってご参加頂きますようお願い申し上げます。

【会期】2015年3月14日（土）～3月16日（月）

【会場】神戸大学 発達科学部 B棟

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11

【大会情報】http://jspsa.net/is_2015

プログラム進行予定、セッション、講演者一覧は上記URLから閲覧できます。

【大会参加費】

- ・2/13(金)以前の振込1万2千円（学生6千円）
- ・2/14(土)以後の振込1万3千円（学生7千円）

【懇親会費】

- ・2/13(金)以前の振込6千円（学生4千円）
- ・2/14(土)以後の振込7千円（学生5千円）

【振込先】

- ・郵便振替；日本生理人類学会国際シンポジウム
00990-4-329943

・他の金融機関から振込の場合

ゆうちょ銀行 店名：〇九九(セキキュウ)店

預金種目：当座 口座番号：0329943

口座名義：ニホンセイジンルイガクカイシンポジウム大会

【事務局（問合せ先）】

〒651-2196 神戸市西区学園西町8-1-1

神戸芸術工科大学古賀研究室気付

国際シンポジウム事務局

E-mail: is@jspsa.net

【第70回大会優秀発表賞受賞者のことば】

第70回大会では、次の4名の皆様が優秀発表賞に選ばれました。第71回神戸大会懇親会にて表彰式が行われました。おめでとうございます。

「顔表情に対する注意反応の男女差-N170とLPPを指標として」

崔多美（九州大学大学院）

この度は発表奨励賞をいただき、大変光栄に思います。本研究にあたってご指導を頂いた綿貫茂喜先生に深く感謝致します。そして九州大学の生理人類学講座、ユーザー感性学専攻の先生方からご助言を頂きました。学会では、他の大学の先生方からも貴重なコメントを頂きました。心から感謝致します。

本発表「顔表情に対する注意反応の男女差-N170とLPPを指標として」は、人の顔表情を区別する際誘発される事象関連電位の男女差を調べた研究です。この研究で、女性は男性に比べ顔に対して後期の注意を高めることが分かりました。これは、男女の生理学的特長・社会的役割の違い（例えば、女性の出産能力、子育ての役割）によるものではないかと考えられます。このように、注意及び情動の男女差の探究は、ヒトの生存能力の探究と深く関連するということから、人類学において重要なテーマであると考えられます。今後の研究を通じて、生理人類学の発展に貢献したいと思っております。

「局所寒冷負荷時の乱調反応パターンの解析」

長野 歩歩（長崎大学環境科学部）

このたびは、このような名誉ある賞を賜り、大変光栄に思っております。本研究に協力して下さった被験者の皆様、研究室の皆様にご心から感謝しております。今回の研究は、冷水浸漬による局所寒冷負荷時の乱調反応パターンから被験者をグループ分けし、耐寒性と関係があるとされている指標や温度感覚から各グループの特徴を検討したものでした。局所寒冷血管拡張反応に関する研究は多く、グループ分けの方法もいくつかあったのですが、この乱調反応のパターンに着目しグループ分けしたものは少なく、その点で研究を行う意義があると考えました。発表当日はたくさんの方々に質問やアドバイスをいただくことができ、初めての学会参加であった私にとって、大変貴重な経験をさせていただきました。研究者としてこれから学ぶべきものが多い私ですが、今回の受賞を励みに、今後たくさんの方々のことを吸収し、私の研究を支えてくださる皆様に恩返しができるような研究者を目指して努力していきたいと思っております。今回は、誠にありがとうございました。

「メラトニン抑制に関する生理的多型と時計遺伝子 PERIOD2 多型との関係及びその適応的意義の考察」

秋山 辰穂（総合研究大学院大学；北里大学）

第 70 回学会大会優秀発表賞という大変光栄な賞を頂き光栄に思います。ご指導頂いた、北里大学の太田博樹先生、勝村啓史先生、同研究室の皆様、九州大学の樋口重和先生、共同研究者の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回の口頭発表は、概日リズムを制御する時計遺伝子である PERIOD2 (PER2) の遺伝的多型と光感受性の指標となるメラトニン抑制の生理的多型の関係を明らかにし、ヒトの進化史の中での PER2 多型の意義を考察したものでした。本研究では、これまで主に個人の可塑的変化から捉えられてきたメラトニン抑制の多型が、遺伝的多型に基づくことが示唆されました。この結果は、集団遺伝学の視点からは十分に研究されていなかったヒトの生理的多型性という特徴に注目し、生理多型の測定に加え、ゲノム情報に基づく遺伝統計解析など多岐にわたる手法を使う

ことで導きだされました。これは、私を含めた様々な分野の研究者が専門分野を超えて協力したからこそ可能になったと自負しております。この研究がヒト多様性を理解する一助になるとしたら幸いです。賞を励みに今後の研究生活に努力を重ねていきたいと思っております。ありがとうございました。

「寒冷環境下における身体局所加温が快適感と作業成績に与える影響」

高橋 涼（北海道大学大学院）

この度は、第 70 回大会優秀発表賞という非常に名誉な賞を賜り、誠に光栄です。本研究を進めるにあたってご指導いただいた前田享史先生、同研究室の皆様、そして本研究にご協力いただいた皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。今回、賞を頂きました発表は、寒冷環境下に曝露された際に身体局所加温を付与することで快適感と精神作業成績にどのような影響を与えるかを検討したものでした。現代社会におけるエネルギー問題の中で、冬期における室内空調の設定温度を下げながらも、身体局所加温技術によって快適感及び精神作業成績の向上を目指したものです。本研究を進めるにあたり、自分の知識不足や測定機器の不良などもありましたが、前田先生から多くのアドバイスとお力添えを頂いたことが大きな助けになったと考えております。今回の賞を励みに、今後もより一層精進していきたいと考えています。最後になりましたが、生理人類学会の益々のご発展をお祈りして結びの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

【関東地区研究奨励発表会終了報告】

下村 義弘（千葉大学）

2015 年 12 月 13 日土曜日に、研究奨励発表会（関東支部）が開催されました。参加者は 47 名、うち学生は 35 名で、開催校である千葉大学の人間生活工学と人間情報科学の両研究室、千葉工業大学、実践女子大学、群馬大学、京都大学、神戸大学からご参加いただきました。発表は 26 演題で、光環境、入浴環境、被服、睡眠、公共施設、店舗などの生活に関わるもの、中枢や自律神経系、感覚、体温調節、歩行などのヒトの生理特性に迫るもの、ユーザビリティやインタフェース、

医療機器などデザインに関わるものなど、内容は実に多岐にわたるものでした。本発表会は学生による研究を奨励する場ではありますが、その内容は十分に年次大会で通用すると思われるものも多く、生理人類学における“研究者の卵たち”の力が存分に感じられました。質疑応答も活発で、一般参加者と学生を問わず討議が展開され、「では座長から質問ですが…」というシーンがほとんど無かったことも印象的でした。優秀発表賞は以下の4名に授与されました；石崎麻衣さん（京都大学医学部人間健康科学科）・山下舞琴さん（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）「健康な高齢者における睡眠の季節性変化」、野曾原由香さん（千葉大学大学院工学研究科人間生活工学研究室）「低強度のひねり負荷の保持が体幹筋の筋活動に及ぼす影響」、村上達郎君（千葉大学大学院工学研究科人間情報科学研究室）「体幹部振動刺激の提示位置と知覚反応時間及び知覚位置の関係」、奥村直人君（千葉大学工学部人間生活工学研究室）「液体洗剤容器に関する人間工学的研究」。

発表会の後は恒例の懇親会でした。千葉大学での開催は今年で4回目ですが、昨年までは石橋圭太先生が事務局をご担当されており、今年も例年通り発表会場から2分という好立地の場所で懇親会の席が設けられました。12月の寒気をものともせず、熱気冷めやらぬうちにアフターコングレスのディスカッションに突入し、賞状授与が行われました。懇親会での先生方や友人との会話は今後の研究活動や就職活動のみならず、人生においても大きな意味を持つものと、事務局担当者は確信しております。

【学会動静】

●大会予定

第72回大会 2015年5/30-31

〔会場〕北海道大学（札幌市）

第12回国際生理人類学会議 2015年10/27-30

〔会場〕東京ベイ幕張ホール（千葉市）

from Editors

次号No.2の原稿締切は2015年4月25日です。

▽ 和文誌が20周年記念号を迎えましたが、本会報も誕生から四半世紀を迎えました。かつては存亡の危機に立たされたこともあったと聞いておりますが、ISSN付きの公式刊行物であることの重要性が見直され、現在も議事録や各種企画記事、受賞報告などが掲載され続けております。今ではPCや電子メールを使うことによって、本会報の編集作業を迅速に行うことが出来るようになりましたが、刊行当初の担当者の苦労は想像を絶するものです。多くの先達から受け継いだ志の価値を高めていけるよう、努力し続けたいと感じております。（安陪）

▽ 新年あけましておめでとうございます。本年もPANewsをよろしく願い申し上げます。さて、今号は巻頭に勝浦学会長から「新年のご挨拶」をご寄稿頂きました。また、第71回大会報告をご寄稿頂きました神戸大学の中村先生、第70回大会にて優秀発表賞を受賞された総合大学院大学の秋山先生を含め、ご寄稿いただきました先生方にはこの場を借りて感謝申し上げます。今年も多くの方の先生方からのご寄稿をお願いいたします。（小崎）

「春風に線香の煙まぎれけり（正岡子規）」

▽ PANews 編集事務局

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター

小崎 智照 九州大学大学院 芸術工学研究院

メールアドレス panews@jspa.net

cc. abed@ip.kyusan-u.ac.jp

cc. kozaki@design.kyushu-u.ac.jp

※お問い合わせなどは、上記のメールアドレスに加え、編集委員のメールアドレスをcc.に付けて御連絡願います。